

TSUNAGU 繋ぐ

文責：嶋原浩之
令和2年 3月11日(水)

見えないけれど・・・，見えるもの。9年目を迎え，大切にしたいこと。

「こころ」はだれにも見えないけれど「こころづかい」は見えない「思い」は見えないけれど「思いやり」はだれにも見える



(宮澤章二作※ 詩「行為の意味」の一節。)

(写真：埼玉県羽生市立三田ヶ谷小学校 HP より)

一人の高校生が階段を登るお年寄りに迷いながらも手を差し伸べる，電車の中でOLらしき女性が妊婦さんに席を譲る，これらの映像とともに流れたメッセージは，東日本大震災後に頻繁に放映されたCMのものであります。皆さんも覚えているのではないのでしょうか。

「思いやり」や「親切」は誰もが大切であることを分かっている，いざその場面に「自分だったらどうするか?」「思いやりのある行動をしてもらったら，どんな気持ちがするか?」「思いやりのつもりが，親切の押し売りになっていないか?」と，迷いは生じるものです。

受け入れてもらえずうまくいかないかもしれませんが，「こころ」や「思い」を届けるべきときには，迷わず目に見える“かたち”にしたいものだと思っています。

宮澤章二(1919.6.11-2005.3.11)

詩人・作詞家
埼玉県羽生市出身。

校歌や合唱曲，童謡などの作詞を多数手がけた。

校歌は埼玉県内を中心に300校以上にのぼる。『ジングルベル』の訳詩者としても知られる。

2013年，母校の羽生市立三田ヶ谷小学校に記念館が開設された。

行為の意味

宮澤 章二 作

——あなたの「こころ」はどんな形ですか
ひとに聞かれても答えようがない
自分にも他人にも「こころ」は見えない
けれど ほんとうに見えないのであろうか
確かに「こころ」はだれにも見えない
けれど「こころづかい」は見えるのだ
それは 人に対する積極的な行為だから
同じように胸の中の「思い」は見えない
けれど「思いやり」はだれにも見える
それも人に対する積極的な行為なのだから
あたたかい心が あたたかい行為になり
やさしい思いが やさしい行為になるとき
「心」も「思い」も 初めて美しく生きる
——それは 人が人として生きることだ

コメディアンのかん本欽一さんがこんなことを言っています。

「心のこもった言葉を，たった一人の人に向かって言う。そこに思いやりや温かい空気が生まれる。」